カナダ特派員日記②

カナダ人の生活にとけ込む

レジャー

橋田忠明

こんな話がある。欧州人に「レジャーとは何か」と聞くと、「それはレクリエーションだ」と答えるが、日本人にはすぐレジャー産業と費用の消費が思い浮かぶ。米国人はその中間。そしてカナダ人にこの質問を投げると「人生のすべて」とか「文化の創造」といった答えがはね返ってくる。

毎年夏になると、バンクーバー、バンフには日本人観光客が文字通り大波のように押し寄せる。最近はカナダ西部だけではあき足らず、東のトロント、モントリオールに足を伸ばす人たちがふえた。そうした日本人観光客の目に、家族連れで公園でピクニックをしたり、湖上でヨットを楽しむ姿が映る。

「見ていると何の悩みもなく、童心そのままで遊びまくっている感じですね」とは、ほとんどの観光客がつぶやく感想だ。大自然と澄んだ空気、鮮やかな緑——。カナダに憧れて訪れた日本人たちは、あわただしくカナダを旅し、ひと夏のレジャーを最大限に過ごそうとする。そこには、レジャーまでも、〝猛烈魂〟で裏打ちされている印象すら受けかねない。

「こんな美しい自然のもとで、夏はヨットやフィッシング、冬はスキー、スケートとダイナミックなレジャーを満喫できるのだから、カナダ人は幸せですよ」と誰もが言う。ただひとこと、「羨ましい」と述懐する若者も多い。

確かに、中間所得層ともなると、ヨットやロッジを持ってあり、週末になると家族や親類が集まってレジャーを楽しむ。カナダは十月末ともなると冬仕度にはいり、雪ごもりの生活が半年余り続く。クリスマス休暇には米国のフロリダや中南米に逃避する人も多い。

「ビジネスでも、レジャーでも、本当にエンジョイできるのは一年のうちに三か月ぐらいしかない」とカナダの人たちはボヤく。雪がとけると、待ちかねたように彼らはレジャー計画に奔走する。職場でも家庭でも気分的にパッと華やぐのがはっきり分る。シーズン中の皆の挨拶、「エンジョイ・ユア・ウィークエンド!!」は心からお互いにかけ合うレジャーの合い言葉と言える。

だが、実際にカナダ人の余暇の過ごし方を見ていると、日本とは発想が異なる。意外に合理的だし、健全である。

ある平均的なA氏の家族（トロント在住）の場合、A氏が毎日職場から帰るのは夕方五時頃。夏は十時近くまで明かるいので、芝生を刈ったり、庭の手入れ、週末用にボートを修理したり。奥さんの家事を手伝うことも多く、近くの公園で子供たちとボール投げをしたりして遊ぶ。平日でも、思いたてば、車にバーベキュー道具を積み込んで湖畔に出かける。公園では親しい近所同士の家族がバーベキューに舌鼓みを打ちながら、会話を楽しむ光景をよく見る。ゴルフも近くのゴルフ場で帰宅してから低料金で十分楽しめる。

夜ともなると、テレビの前で夫婦の語らいである。あるいは、家の内装替えと趣味で少しずつ楽しみながらやる。子供たちをベビーシッターに頼んで、夫婦でパーティや観劇に出かけることもしばしば。そして、土、日の週末は近くのロッジや湖畔に泊りがけで出かけ、夏の陽光を一身に浴びながら遊ぶ。日光浴をしながら、小説に読みふける人も多い。

子供たちの夏休みは三か月。前半はキャンプにやり、後半に家族連れで旅行に出る。カナダでは経営者ですら夏休みは一か月ガッチリとり、休みをとらないと家族から文句が出て、家族会議にもなりかねない。

その旅行も、〝故郷〟の欧州各国に帰省したり、レゾート地域で長期間滞在して過ごす。費用は千ないし二千カナダドル程度。レジャーに金の糸目をつけない日本人から見ると、いかにもつましい。親や親類と集まって、普段は忙しくて交流できない埋め合わせをする。戦後日本人が忘れがちな精神的なレジャーが、カナダでは意識されずに生きている。

カナダ観光省のマーサー・マーケティング局長によると、「カナダのレジャー